

# 第53回日本神経精神薬理学会 年会 一般演題採択結果

## 薬学分類

演題番号	登録番号	発表日	時間	発表者(敬称略)	所属機関名	演題名
P3-1	10000	9月7日 (木)	16:30~ 17:30	松島 俊也	北海道医療大・薬・薬理学	ニワトリ胚のニコチン性アセチルコリン受容体伝達の阻害は孵化後の雛に自閉症様の視知覚発達不全をもたらす
P3-2	10002			蒔田 幸正	武田薬品工業 医薬研究本部	NGLY1欠損症モデルマウスにおけるオキシトシンの減少
P3-3	10013			朝比奈 誠	Takeda-CiRA Joint Program (T-CiRA)	NGLY1欠損症ラットモデルにおける神経学的表現型の可逆性
P3-4	10014			徳永 希	広島大・院医系(薬)・薬効解析	アストロサイト-connexin43はリゾホスファチジン酸受容体を介した抗うつ薬の作用亢進に関与する
P3-5	10020			出山 諭司	金沢大院・薬・薬理	炎症による抑うつ様症状の自発的治癒におけるGPR18の役割
P3-6	10031			荒木 良太	摂南大・薬・複合薬物解析	幼若期のクラリスロマイシン投与は腸管バリア機能を抑制し社会性を低下させる
P3-7	10037			鈴木 清流	富山大学大学院総合医薬学研究科・薬物治療学研究室	Teneurin-4発現減少誘導うつ様行動に対する髄鞘形成促進剤クレマスチンの作用
P3-8	10038			江崎 博仁	金沢大院・薬・薬理学	ニコチンによる物体認知記憶増強作用における内側前頭野内エンGRAMセルの関与
P3-9	10041	9月8日 (金)	17:20~ 18:20	大岡 静衣	公財・都医学研・依存性物質プロジェクト	慢性疼痛関連heparan sulfate glucosamine 3-O-sulfotransferase 4 遺伝子一塩基多型下流から発現する新規部分欠失蛋白質は、転写プロモーターを制御する
P3-10	10042			宮西 肇	富山大学大学院 医学薬学教育部 薬物治療学研究室	背側線条体-縫線核間神経ネットワークのうつ病病態におけるストレス感受性への寄与
P3-11	10051			浅野 昂志	富山大学・学術研究部薬学和漢系・薬物治療学	CB1受容体刺激薬の離脱時における睡眠への影響
P3-12	10054			山脇 洋輔	第一薬科大学 薬学部	三環系抗うつ薬イミプラミンは歯周病原細菌由来LPSが誘導するミクログリアによる神経障害を抑制する
P3-13	10055			徳竹 伯洸	富山大学大学院医学薬学教育部薬物治療学研究室	マウス基底外側扁桃体カンナビノイド1型受容体の場所嗜好性および抗不安様行動への関与
P3-14	10069			坂口 理智	大塚製薬株式会社医薬品事業部創薬基盤研究所	初代培養神経細胞由来のカルシウム振動の波形解析を用いたフェノタイプ評価技術
P3-15	10074			松尾 由理	北陸大学薬学部薬学臨床系薬理学分野	マウス急性拘束ストレスモデルでの神経炎症とうつ様症状における膜結合型PGE2合成酵素-1の役割
P3-16	10076			堀田 朋弥	富山大学大学院総合医薬学研究科 薬物治療学研究室	マウス前頭皮質におけるTeneurin-4ノックダウンの行動および睡眠への影響
P3-17	10080	9月7日 (木)	16:30~ 17:30	伊達 悠起	千葉大学大学院融合理工学府生物学コース	画像解析を用いた、リソソーム集積を介するオートファジー誘導剤の同定とパーキンソン病への応用
P3-18	10083			森屋 由紀	公益財団法人東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト	&mu;オピオイド受容体欠損マウスにおける&delta;オピオイド受容体作動薬の相加効果による絶望感軽減の雌雄差
P3-19	10086			藤田 和歌子	長崎大院・医歯薬・医科薬理学分野	GPCR 運搬分子 Receptor transporter protein 4 (RTP4) の生理的役割についての検討
P3-20	10090			朱 文俊	Neuropsychopharmacology and Hospital Pharmacy, Graduate school of medicine, Nagoya University, Nagoya,Aichi, Japan	Selective rho-associated protein kinase inhibitor has the potential to be a novel therapeutic target for schizophrenia
P3-21	10092			笠井 智香	東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室	疼痛時の超音波音源を用いた心理的ストレスにより誘発される痛覚過敏と炎症性疼痛への影響
P3-22	10094			中村 庸輝	広島大・院医系(薬)・薬効解析	パーキンソン病関連性疼痛に対するhigh mobility group box-1中和抗体の鎮痛効果
P3-23	10096			宮野 加奈子	東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座	化学療法誘発性末梢神経障害(CIPN)におけるガバペンチノイドおよび漢方薬牛車腎気丸(GJG)の併用は抗がん剤の投与期間を延長し、投与量を増加させるーリアルワールドデータを用いた解析ー
P3-24	10100	9月8日 (金)	17:20~ 18:20	米持 奈央美	星薬科大学薬物治療学研究室	抗精神病薬による耐糖能異常の発現機序の解明：ドパミンD<SUB>2</SUB>受容体による血糖調節と代謝性疾患における変化
P3-25	10108			高城 美保	東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室	炎症性疼痛モデルマウスに対する心理的ストレスの影響
P3-26	10113			小川 夏葵	東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室	ナトリウムチャンネルを介したフェンタニル誘導体の鎮痛作用に関する検討
P3-27	10117			林田 紗枝	星薬科大学薬理学研究室	視床下部室傍核内副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH)含有神経の活動亢進が術後疼痛の遷延化に及ぼす影響
P3-28	10123			木住野 晃代	星薬科大学薬理学研究室	短期間の睡眠量の低下による痛覚応答とオピオイド感受性の変化
P3-29	10125			山崎 拓夢	摂南大学・薬	腫瘍切除マウスの行動異常はフルオキセチン感受性の抑うつ症状を反映する
P3-30	10126			尾中 勇祐	摂南大学・薬	メマンチンはトリメチルスズが誘発する一過的な認知機能障害の回復を遅延させる
P3-31	10127			9月7日 (木)	16:30~ 17:30	長野 和佳菜
P3-32	10134	有馬 涼帆	星薬科大学 薬理学研究室			イストラデフィリンの特徴的な行動薬理学的変化に関する薬理学的検証
P3-33	10135	國澤 和生	藤田医科大・院保健・レギュラトリーサイエンス			社会的敗北ストレス負荷によるうつ様行動はユビキチン化酵素Nedd4L発現低下によるグルタミン酸神経機能低下を介している
P3-34	10137	太田 航平	星薬科大学 薬理学部			カチノン系危険ドラッグmethcathinoneのハロゲン化薬物による自発運動促進効果をはじめとした行動解析: 指定薬物の蓋然性評価系の確立を目指して
P3-35	10142	尾山 賀信	大阪大学蛋白質研究所高次脳機能学研究室			ドレッドリガンド投与がマウスの報酬獲得行動に及ぼす影響
P3-36	10147	橋本 佳応	筑波大院・人間総合科学・医学			新規創製選択的オレキシン1受容体作動薬の鎮痛効果と疼痛モデルマウスにおける治療有効性の解析
P3-37	10150	岩井 康晴	岐阜薬大・薬・薬物動態学			フェンタニル類似体benzoylefentanylおよび3-phenylpropanoylefentanylの摂取証明に向けた代謝研究